

いろいろな命を見つめよう！

～自分の命 友だちの命 動植物の命 みんな生きているんだね～

— 吉良町立離島保育園 —

1 実践のねらい

- 食事や運動を通して丈夫な体作りの大切さに気づかせる。
- 園生活の中で起こりうるさまざまな体験を通して、友だちを思いやる心、いろいろな動植物にも命があることに気づかせ、大切にすることを育む。

2 実践の内容

(1) 小動物「かえるの卵」の観察を通して親しみを持つ。

園の田んぼわきの用水路でかえるの卵を見つけた。早速、持ち帰り水槽に入れ観察することにした。「卵が孵ったらいっぱいになるね。」と楽しみに観察する。観察し始めて1週間。小さく透き通った小さいおたまじゃくしが生まれ、子どもたちも「可愛いね。」と誕生を喜び合っていた。しかし、この喜びもつかの間、2、3日過ぎた頃、どうしたことかおたまじゃくしがみんな死んでしまったのである。成長を楽しみにしていた子どもたちも落胆。室内で飼っていたため、もっと日光に当てなくてはいけなかったことを教えてもらった。子どもたちとともに片付けながら「かわいそうだったね。」と飼育の失敗を反省することとなった。

(2) 野菜の栽培とクッキングをして食べることの楽しさを知らせる。

人参・ジャガイモ・ピーマン・さつまいも・ゴーヤ等、種まき、苗植えをし、水やり草取りなど世話をしながら生長を観察し収穫した野菜でクッキングを園全体で行った。野菜嫌いの子どももいつしか「保育園のゴーヤはうまいね。全然にがくないや。」とやせ我慢？ トマト、ピーマンも家では口にしない子どもも世話をし、目の前で生長していく姿を見ることにより愛着を感じ、いつしか「おいしい」と思うようになってくれたのではないかと考えられる。また、店に行けば買える。買えば食べられると思っていた子どもたちも、物を作り出す大変さ、できた時の喜びを保育士とともに感じる事ができた。



(3) 園外保育（愛知こどもの国 動物ふれあい広場にて）

ふれあいコーナーにて、ウサギの赤ちゃんを抱っこして「かわいいね。」「毛がふわふわだよ。」と初めは恐る恐る触れていた子どもたちも、次第に馴じんで膝に入れ体を撫で回しながら親しむことができた。また、ニワトリやフラミンゴ、アヒル等、身近に感じ触れ親しむことができ、時間の経つのも忘れて遊ぶことができた。

全員で“あひる旗あげ競争”に参加。思い思いの番号を選び、1番になった子は鼻高々で満足そう。ヤギの親子のしぐさに目を細め、いろいろな動物とのふれあいを満喫できた。

(4) 親子で観劇

劇団「ばんび」を保育園に招き、「かさじぞう」を観る。おじぞうさまに対するおじいさん、おばあさんのやさしい思いやり、そして恩返しをするおじぞうさまの気持ち など心温かなお話に楽しいひとときを過ごすことができた。新たに親子で人に対する思いやりについて触れ合う機会が持てたことが有意義であった。また、この感動が子どもたちの心にも印象に残り12月の発表会で自分たちで演じてみようという気持ちになり取り組むことになった。

(5) 絵本を通して保育の中で命の大切さを知らせていく

日常生活の中で、子どもたちの身近な人たちに赤ちゃんが生まれたり、誰かが病気になったり、亡くなったりした折に機会を逃さず関連した絵本を読み聞かせていくことにした。絵本を通して、身近な人が感じた喜びや悲しみを共有してほしかったからである。また、人だけでなく、園で飼っている小動物や植物、登園途中の出来事や散歩中に出会う機会も多く、幼い子どもたちに理解できる「いのち」の営みをいろいろな面から知らせることができた。

3 おわりに

園で飼っていたおたまじゃくしが“かえる”になり、喜び合ったり、死んでしまった生き物（ザリガニの赤ちゃん、金魚、セミ）、飛んできた小鳥の激突死を目の当たりにしたり、あるいは、散歩途中で見つけた草花・木にも芽が出たり、花が咲いたり、種ができたり、枯葉が落ちたり、みんなで植えたさつまいも等夏野菜などの収穫などを通して、身の回りのあるものには、すべて命があることを日々の生活の中で知らせ、子どもたちと一緒に感じあうことができた。特に収穫した野菜のクッキングでは、野菜の命をもらって私たちの命をつないでいることを知らせ、好き嫌いをしないで何でも食べることが、丈夫な体を作り出すことも知らせることができた。

今後も保育士が感性を豊かにし、子どもたちと一緒にいろいろな環境を作ったり、場面を通して、小さな命を大切にすることを育んでいきたい。



愛してるよ、大切な子ども達！

— 幡豆町立幡豆保育園 —

1 実践のねらい

- 誕生会を通して命の大切さや多くの人から愛され、大事にされているという実感を持つ。
- 食育を通して、食べる事の大切さを知り、楽しく美味しく食べることができる。

2 実践の内容

(1) 誕生会の年間計画の作成

- 各月のねらいに応じて人形劇、パネルシアター、絵本、紙芝居、エプロンシアターなどを使ったり、妊産婦を招く等の活動を計画した。

月	ねらい
4	自分や友達の誕生を祝う
5	自分が家族の一員である事や家族の役割を知る
6・7	体を清潔にする事の大切さを知る
8	絵本や妊婦を見て、命の誕生について知る
9・10	健康に関心を持ち、自分の身体を大切にす
11・12	家族から大切に育てられている事を知り、感謝する
1・2	自分でできる事が多くなった事に気付き、成長を喜ぶ
3	1年間の成長や家族の応援への感謝の気持ちを持つ



保護者の妊婦に協力を依頼し、日々お腹の大きくなっていく様子を見たり実際に触れるなどの経験を重ねたり、命の誕生の様子を写真本で見る事で、より一層その神秘性を感じ取る事ができた。誕生児の保護者からは、お祝いメッセージや誕生のエピソードなど書いたカードを作成してもらい保育士が子どもの前で読み上げた。子ども達に満面の笑みが見られ、中には、嬉しくて泣き出す感受性の豊かな子どももいた。また、誕生時の写真や産着など園に持ち寄り現在の姿と見比べる事でひとりひとりの成長の様子を実感する事ができた。どの子も家族から愛されている事を実感し満足感を味わうと共に、大切な自分の身体を自分自身で守ろうとする意識が高められた。

(2) 食育

- 「野菜の栽培活動」を通して、収穫する喜びを体験したり、自分達が育てたものを食べる事で今までとは異なった食物への愛着や味を感じ取る事ができた。

- 「どろんこ体験」では、やぎや鶏の餌やりをしたり、収穫したオクラ、モロヘイヤ、卵を自分で調理し食べる等の経験をした子ども達は初体験の子が多く、一つひとつの活動に目を輝かせ一喜一憂しながら参加していた。



- 「給食センターの見学」をし、栄養教諭から栄養の話、調理員から調理方法や調理士の思いを聞く事で給食ができるまでの工夫や苦労など、子ども達の事を思いやった食事である事を理解できた。多くの人の力を合わせて毎日の給食ができていた事を知り、感謝の気持ちを持つ事ができた。



- 「食べ物カード」を使って給食、おやつ材料とその栄養分類を、子どもに親しみのある動物に例えて知らせた。毎日ゲーム感覚で遊ぶ事で食材への意識や栄養への関心が高まり、嫌いな食材にも挑戦しようとする姿も見られた。また、命ある物を頂き命へとつなげていく事を日々知らせながら、残さずに食べようとする気持ちを育ててきました。保護者や祖父母にも園での活動を知らせ、家族との食卓で共通話題となるよう工夫した。食べる事の意味や大切さ、楽しさが多くの人と味わえる経験ができた。



丈夫な身体を作る食べ物



強い力が出る食べ物



病気から守ってくれる食べ物

3 おわりに

- 色々な実践を通して、子ども達はそれぞれ多くの人から愛され大切に思われている事を実感する事ができた。子ども達は、自己肯定感を持ち、自分自身を大切にする気持ちを持つ事で周りの人や小さな命を大切にしようとする心情や態度が育っていく。今後も、保護者との相互理解を深めながら、幼児期に必要な色々な体験の出来る環境を整えていきたい。

4 参考

どろんこ体験：NPO はっくるベリーじゃむ

参考図書「あなたをずっとあいしてる」「うちにあかちゃんがうまれたの」ポプラ社

「あかちゃんのはなし」福音観書店「げんきをつくる食育絵本」金の星社

みんな 大きくなあれ！

—— 育てること 命を大切に ——

— 三好町立明知保育園 —

1 実践のねらい

- 四季折々の野菜草花の栽培や小動物の飼育観察を通し発見や感動を伝え、「思いやり」や「やさしさ」を育み命の大切さを知る。
- 自分たちで育てた野菜を調理した物を食べることで豊かな自然に感謝するとともに、命を保ち成長を助けてもらっていることを実感させる。
- 祖父母とのふれあいを通して人とかかわること、自分たちは愛されているというを感じ、人を思いやる心を育む。

2 実践の内容

(1) 動植物の飼育・栽培の世話と観察を通して命のあるものを大切にする

- ◎ 小動物の飼育観察をする。

（おたまじゃくし・ざりがに・めだか・金魚
あお虫・くわがた・かぶと・かたつむり・ぼった など）

子どもたちが見つけた小動物を観察し飼育することでいろいろなことを発見し、生命の不思議さや世話をすることの大切さを子どもたちが肌で感じる事ができた。

(2) 保護者や祖父母と栽培活動を通し、収穫に期待しふれあいをもつ

- ◎ 祖父母と一緒に栽培活動をする。

年長児

- 夏野菜の栽培と収穫を期待し祖父母と一緒に苗を植えた。野菜の種類と苗の形を知り、祖父母の経験を聞き栽培に関する知識を得て、いろいろな発見をしながら栽培できた。

年中児

- 祖父母とふれあい地域を散策し祖父母の畑やこの地域で栽培している作物について話を聞き、地域の農作物（特に果樹）に関心を持つことができた。

園周辺の散策では、祖父母の話にでてきた畑の様子や果樹園などを目にしてより関心が高まった。



(3) 業務員や栄養士より話を聞いて食と体に関心を持ち、食べ物をいただくという心を育てる

- 給食センター栄養士の話や命に関する絵本の読み聞かせを聞いたりする。
 - ・いつも食べている給食の献立がどのように考えられて作られているのか、材料に何が使われどんな工夫がされているのか知ることができた。
 - ・食べ物を食べるということがどういうことか知ることができた。
 - ・食べ物の大切な働きについて関心がもてた。

(4) 収穫した野菜を使い調理したものを試食し、食べ物への関心を高める

- 収穫した夏野菜・さつまいもを使って調理し、給食やおやつで食べる。
 - ・自分たちで作った野菜ということもあり、苦手としていた子どもたちも食事に出てくることで口にし、食べ物の栄養・働きを体で感じることで満足そうであった。



(5) 卒園・進級に向けての花の植え付けと栽培をする。(11月)

- 水栽培での植物の成長を観察する。
(ヒヤシンス・クロッカス・アマリリス)
- 高校生のお兄さん・お姉さんと一緒に花の種や球根を植える。
(チューリップ・パンジー・ビオラ)
- 成長・収穫を楽しみにいちごの苗植えをする。
自分たちより大きいお兄さん・お姉さんとふれあうことで大きくなることへの期待がもてた。人とのかかわりの中で高校生も園児もお互いがふれあい成長することの意味を感じることができたと思う。
植物の成長を自分たちの姿に置き換えて小さな種や球根が太陽と水との栄養をしっかりと受けて成長することを伝えることができたと思う。
そして、年長児が自分たちの卒園に合わせて大きく花開くことを期待し植えることができ、日々の変化や成長を楽しみに観察栽培できたと思う。

3 おわりに

- 祖父母や地域の人との交流、動植物の飼育栽培をはじめ“命”“生きる”ということの尊さに気づくことができた。子どもたちが自らの体験から「生かされている」「愛されている」「大切にされている」と感じ行動に移すことができた。今後も日々の保育の中で保育士が意識し取り組んでいきたいと思う。

思いやりの心・やさしい心・命を大切にする心を育む保育

— 設楽町立津具保育園 —

1 実践のねらい

- 絵本の読み聞かせ、人形劇の鑑賞を通して物語の世界の触れ、自分や友達への思いやりの心・やさしい心を育む。
- お話し会を通して、かけがえのない命の大切さを知る。
- 野菜の栽培・収穫を通して、豊かな自然に感謝すると共に食の大切さに気づき、命を大切にしようとする気持ちを育む。

2 実践の内容

(1) 絵本の読み聞かせ・人形劇鑑賞・誕生会・お話し会

- 絵本・紙芝居の読み聞かせ
日頃の保育時間に「命の大切さ・思いやりの心・やさしい心」を内容とした絵本・紙芝居を選出し、読み聞かせをする。
絵本・紙芝居を通して、どんなものにも命があることに気づき、園庭に咲いている雑草の花ひとつでも「取ったらかわいそうだよね。」とか、園舎内で虫を見つけると「外に逃がしてあげて！」という言葉を目にするようになった。
- 人形劇鑑賞
10月に「おおきなかぶ」「おばけサーカス」を鑑賞する。日頃、生の演劇を鑑賞する機会のない地域のため町内の保育園にも呼びかけ合同で行った。
2作品共に、一人ではできない事もみんなで助けあう気持ち・思いやりの気持ちが大切という事をわかりやすく気づかせてくれ心に残るものとなった。
- 誕生会
全園児を対象として毎月の誕生会には、誕生児の保護者を招待し、わが子が生まれ時の様子やこれまでのエピソードなどを話して頂いた。親子共に、初めは照れた様子でみんなの前に座っているが、母親からのメッセージになると、どの子どもとても嬉しそうであった。そして、誕生児の子はもちろん誕生児以外の子も大切に育てられた事、みんなに愛されている事を知る良い機会となった。
- お話し会 「いのちを伝えるお話し会」
12月に豊橋市の助産師さんを講師に招き、年長児とその保護者を対象に行った。



「赤ちゃんはどこで育つ？」の質問に、出産から誕生までを写真や絵本で説明があり、赤ちゃんはお母さんのお腹の中でゆっくりゆっくり育って生まれること知る。超音波ドップラーで子供たち数人が心音を聞いてみる……。それぞれ音の早さが違うことを実感し「この音が止まると、人は死んだといひます。」と言ったところでは「死にたくない」と。また、赤ちゃん人形を用い、赤ちゃんの大きさやへその緒でつながっていることを教えてもらった。さらに絵により赤ちゃんの特徴の説明があり、赤ちゃんの抱き方も教えてもらった。子供たちは緊張しながら大事そうに人形を抱き、顔はうれしそうにニコニコして、じっと人形を見つめる様子は本当の赤ちゃんを抱いているようだった。



最後に「赤ちゃんは言葉はしゃべれないけれど、特別な「泣く」という言葉をもっている。その言葉がわかるのはお母さんだけ……。誕生日は赤ちゃんがお母さんから生まれた日。誕生日には「ありがとう」って言ひましょう。」と教えられ、自分たちの命がどれだけ大切な命であるかを実感した。



(2) 植物の栽培・収穫

○ 植物の栽培、収穫

園の畑でじゃが芋を植えた。芽が出て小さな苗がどんどん大きくなり花が咲き始め、みんな収穫を楽しみにし、収穫時にはたくさんのじゃが芋が取れ大喜びであった。収穫したじゃが芋はお泊り保育時に、カレーライス・サラダの材料とし「おいしい！」と歓声をあげていた。植物の成長を知り、育てる大変さを体験したことで、食の大切さ知ることができた。

また、園の花壇に植えた朝顔・サルビア・金魚草・マリーゴールド・サフィニアの花の世話を体験し、毎日水をあげないと花は枯れてしまうことに気づき、命の大切さを知ることができた。

3 おわりに

日々の保育の中で命に触れるということは、生活する中で常に隣同士であり、子供たちが経験するすべてが命につながっていることに気づくことができた。子供たちの遊びの中で時々、「○○ちゃんはけがしたことね」とか「○○ちゃんは死んだことね」という言葉を簡単に言っていることを耳にする。そんな時、私たち保育士が「命を大切にすることを育む」ことを意識して関わることで、子供たちの行動・言葉・心に一番響いていくことを強く感じた。

また、多くの経験の中で、どんな小さなことでも向き合っていくことの積み重ねが大切だと思った。子供たちが、将来自分や家族・友達を思いやり、命を大切にすることに育つことを願ひながら今後も見守っていきたいと思う。

4 参考

公 演 人形劇団 パン 「おおきなかぶ」 「おばけサーカス」

参考図書 絵本「うちにあかちゃんがうまれるの」ポプラ社刊 いうえみこ文

自然の中で生かされていることへの感謝の気持ちを育む保育

— 小坂井町立中保育園 —

1 実践のねらい

- 小動物の世話、絵本の読み聞かせ、野菜や草花の栽培、散歩など、日々の保育を通して命の大切さ、生きることの喜びを積極的に伝えていく。
- 体験施設にて自然環境に触れたり、教材用聴診器を使って人や小動物の鼓動を聞いて、生きていることを実感する。

2 実践の内容

(1) 小動物の観察と世話



- つばめがワラや土をくちばしで運び巣を作る様子、巣から体を乗り出して餌をもらうヒナの様子を園のテラスで観察した。何度も餌を運んで飛んでくる親鳥の姿やヒナの鳴き声でとても賑やかであった。「来年も園へ飛んできてね」と子ども達と一緒に語り合う。
- チャボには「あっみみズを食べた」「だんごむしも食べるよ」と、子どもたちが園庭のすみから虫を捕まえて来たり、刻んだ菜っ葉を食べさせている。生みたての温かい卵は一人ずつ順番に家に持ち帰って、目玉焼きなどにして食べてもらっている。
- ザリガニ捕りに網やバケツを持って出かけ園で飼育する。脱皮し大きく成長していく姿や、卵から赤ちゃんが生まれ泳ぎ回る姿を図鑑と照らし合わせながら観察した。また、自分たちを楽しませてくれたザリガニが死んだ時は、土に埋めて感謝の心を表した。

(2) 植物の栽培と観察

- アサガオやヒマワリ夏野菜の栽培を行い、水やりは年長児に担当させた。水が不足すると植物の元気がなくなってしまうことを経験する。収穫した野菜は給食時にサラダの中に入れたり、味噌汁の具に利用し、みんなで収穫の喜びを味わった。草花の種は、来年使えることを伝え命の循環を知らせた。

- さつま芋の苗を植え、生長を全園児で楽しんだ。夏には子ども達も草取りに出かけ、お芋が大きくなるまでには世話をすることの大切さを知らせる。収穫後は子どもと一緒にでホットブ



レートでバター焼きにして、自然の恵みに感謝していただいた。

(3) 動物ふれあい教室

- 愛知県動物保護管理センターにお願いして大型犬や子犬とのふれあいを行う。子犬を抱っこしてその温かさに触れたり、聴診器で心音を聞いて生きていることを確かめ合った。また、友だち同士でも心音を聞き合い、生きているということは人も動物も同じであることを実感し合った。その後聴診器は家庭にも貸し出しをしている。

(4) 農業体験施設

- 鶏舎に入り、産卵ケースに卵が入っていないかなと探しながら卵拾いをした。モロヘイヤを摘みに行き、水で洗った後味噌汁の具にしてもらったり、集めた卵を自分で卵焼きにする活動もさせてもらったりで、食への関心も高まった。田んぼにでかけどろんこになって体をぶつけ合って全身で遊び、自然の中で遊ぶ楽しさを味わった。

(5) 散歩

- 週1回園の周りや、公園、神社、川の土手、乳牛見学などに出かけている。町の様子を見たり、野菜の生長に気付いたり、土手でつくしや草花を摘んだりしている。また、散歩の途中で近隣の方々と挨拶をかわすのも、楽しい経験になっている。

(6) 絵本・紙芝居の貸し出しと読み聞かせ

- 命を育むことを目的とする絵本を購入し、子ども達に読み聞かせたり、貸し出しを行っている。両親、祖父母、兄弟、動物、植物、自然などに目を向け、命の誕生、死、喜び、悲しみ、やさしさの心を学んでいる。保護者の方への絵本貸し出し数も増え、命を大切にすることを育むことへの関心も高まっている。

3 おわりに

- 今回の実践を通して、職員が自分たちの保育を省みる機会を得、子どもたちの心を温かく育み、命の大切さを伝えて行こうという気持ちが高まった。相手を思いやる気持ち、みんな違ってみんないいの心、誰もが掛け替えのない命を持っていることなど、まず、職員の気持ちが揺さぶられたように思う。生活発表会の「命を育む歌」の発表では、子ども達と保育士の一生懸命さが保護者の方にも伝わり、大好評であった。日常保育では、保育士のよりきめ細かい配慮が見られ、子どもたちもそれに応え生き生き活動している。引き続き保育士の学習を重ね、命を大切にする心を育んでいきたい。



